

② 第2委員会

「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」



それでは、第2委員会の意見を発表します。

第2委員会のテーマは、「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」です。このテーマについて考えるため、^{わたし}私たちは、7月22日に、^{いりょう}西部医療センターの^{しせつ}施設見学を行いました。

そこで、^{わたし}私たちは、^{かんじゃ}患者さんが安らげてリハビリもできる屋上庭園、家族も立ち会えるので安心して出産できるLDR、^{かんじゃほんそう}患者搬送用のエレベーターがついているヘリポート、^{かべ}ピンク色の壁で心が^{おだ}穏やかになる^{しゅじゅつ}手術室などを見ました。

そして、病院の^{しせつ}いろいろな^{かんじゃ}施設に^{やさ}患者さんに対する優しさや工夫、細かい思いやりがあると感じました。

その後、^{わたし}私たちは、^{しせつ}施設見学をしてわかったことや感じたことをもとに、名古屋を「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするためには何をすればいいか考えました。

それでは、^{わたし}私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

私が、施設見学をして感じたことは思いやりです。院内には車椅子の人などが転ばないように段差が少なかったり、お年寄りの人が歩きやすいように廊下に手すりをつくってあったり、手術のとき、緊張をほぐすため、壁の色をピンク色にしたり、そのほかにも思いやりを感じられる工夫がたくさんありました。

皆さんに伝えたいのは、思いやりは時には命が関係するということです。なので、迷子の子がいたら助けたり、困っていそうな人がいたら声をかけてあげたり、そうしたことがふえたら、「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」がいつかできると思います。なので、皆さんもそういう心を持ち、そういう行動をしてみてください。そうしたらもう一度言いますが、「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」ができると思います。

○子ども議員

私は、「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするためには、もっとこのまちにコンクリートだけではなく、やわらかい床がふえたらいいと思いました。西部医療センターの屋上庭園は、全部ゴムでやわらかく安全で思いやりがあるなと感じたからです。この名古屋市にも思いやりをふやしたいので、そうしたらいいなと思いました。

もう一つは、今は中学生までが医療費がただなので、ただなのを高校生までにしたらいいなと思いました。ただにすると、高校生も病院に来て、多くの人が病院に来るので、たくさんの命が救えるなと思いました。

○子ども議員

「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするには、まず病気の人などを元気にしてくれる病院が大切だと思います。

僕は病気の人たちを元気にしてくれる病院を見学してきました。病院の中は、手術室や検査室の壁の色が明るい色で、患者さんの気持ちを和ませていたり、ひだまりの丘という緑いっぱいの落ちつく場所があったりと、施設一つ一つに思いやりが詰まっていました。その思いやりが患者さんに伝わって、思いやりのあるまちになっていくのかなと思います。

○子ども議員

私が、西部医療センターに行って思ったことは、患者さんに優しい工夫です。それは、センター内全てがバリアフリーということと、広い廊下に飾っている絵などです。そういう工夫をすることで、来院者によい印象を与えられるからです。

また、私が一番すごいことだなと思ったのは、スタッフの笑顔です。大丈夫ですかなどと笑顔で言うと、そのような笑顔で患者さんも笑顔になり明るくなると思いました。このような工夫があるからみんなが利用したくなるのだなと思いました。

○子ども議員

僕は、西部医療センターを見学しました。そこでは、がんをより早く見つけるPET-CT、そしてがんを治療する高精度放射線装置などがそろっていました。がんが早く発見できた人やがんで苦しんでいる人が少しでもこの機械で治ればいいと思いました。がんが治った人の家族が喜んでいるところを見ると、病院の人もうれしくなると思います。

命を大切にすることがみんなを笑顔にして、思いやりのある名古屋になると思います。

○子ども議員

私は、「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」にするためには、地域のおじいさんやおばあさんのお手伝いや、お話をたくさんしたり、目や耳の障害のある人のお手伝いをしたり、赤ちゃんをだっこしている人や、席に座れなくて困っている人などをバスや電車で見かけたら席を譲るなどのことを進んですることによって、子どもからお年寄りまで、仲よくできるまちづくりをすればいいと思いました。

○子ども議員

私は、病院の施設見学で最も印象に残ったことがありました。それは施設一つ一つに思いやりがあることです。例えば、病院の中の手術室が、手術を受ける患者さんが不安にならないようピンク色になっていたり、手すりが病院全部についていたりなど、いろいろな工夫がされていました。

私は病院のさまざまなところに優しさや思いやりがたくさん詰まっているから、命を守る病院の役割ができているのだなと思いました。そして、そういう病院はこの名古屋に必要だと思いました。

○子ども議員

名古屋をよくするためには、私たち一人一人が身近な人に優しくすることが大切だと思います。

私には弟がいます。半年に一回、西部医療センターに通っています。弟は発達障害があります。ほかの子と比べておしゃべりが苦手です。私が病院に一緒に行くと、職員の方が気にかけてくれたり、お散歩でひだまりの丘に行きます。待つのに退屈しません。弟の努力と病院の人の優しさでだんだんおしゃべりができるようになってきました。私が弟を大切に思う気持ちが名古屋の人につながっていくといいと思いました。

○子ども議員

わたしは、西部医療センターの施設見学をして、病院だからできる患者さんのための優しさや気遣いができるんだなと思いました。

また、ひだまりのおかという庭、公園のような場所には、足などに負担がかからないようにやわらかい床になっていました。そういった工夫や気遣いが、「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」に近づいていくと思います。病院だけではなく、多くの人が集まる場所などでは、そういった工夫が必要です。一人一人の優しさが必要ですよ。

○子ども議員

私が病院見学で思ったことは、その病院が患者さんに優しいつくりになっているということです。確かに私のおじいちゃんやおばあちゃんは、私より動くのが苦手です。なので、病院でそういうつくりだと、おじいちゃんとおばあちゃんは動きやすいし、私も安心ですよ。

しかし、それだけではなく、カラフルにして、元気になれるようなつくりになればいいと思います。なぜなら、病気になったら誰でも落ち込んでしまって、病気が悪くなってしまうといけなからです。だから、病院は白いままじゃいけないと思います。

○子ども議員

名古屋のまちを、「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするには、まず優^{やさ}しさや思いやりがいっぱいあふれるまちにしたほうがいいと思います。

見学した西部医療^{いりょう}センターでは、患者^{かんじゃ}さんが使いやすくなるように、施設^{しせつ}一つ一つに優^{やさ}しさと思いやりがありました。だから僕は西部医療^{いりょう}センターを見習って、名古屋のまちを、「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするには、まちにいる人、一人一人が優^{やさ}しさと思いやり、そして命を大切に^{いた}する心を持つてばいいと思います。

○子ども議員

僕^{ぼく}が、西部医療^{いりょう}センターでの見学で思ったことは、細かなところまで行き届^{とど}いている優^{やさ}しさです。例えば、お産に立ち会いたい人のために、お産をする部屋を広くし、過^すごしやすくしていることや、家族にへその緒^おをプレゼントしていることが、来院者やその家族のための優^{やさ}しさだと思いました。また、手術室^{しゅじゅつ}の中を心が和おようにピンク色の壁^{かべ}にしたり、エレベーターの壁^{かべ}に椅子^{いす}をつけたり、患者^{かんじゃ}さんのための優^{やさ}しさもありました。

僕^{ぼく}は名古屋市^{いた}の至るところにも、市が中心となってこの西部医療^{いりょう}センターを見習い、細かなところまでの優^{やさ}しさがあふれるような名古屋市になるとよいと思います。

○子ども議員

僕は、西部医療センターのひだまりの丘という屋上庭園で患者さんへの思いやりを感じました。例えばやわらかい床にすることで、足への負担を減らし、けがを防ぎます。ほかにも花粉の少ない植物があり、花粉症の人でも利用しやすくなっています。

西部医療センターが患者を思いやるように、市は市民を思いやり、まちをつくることが大切だと感じました。僕ができることは、学んだことを友達に伝えること、花粉の少ない花を植えることです。この小さな一歩がまちをよくする一歩になるとよいと思います。

私たち第2委員会は、このようなことが、名古屋を「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするために必要だと考えました。これで、第2委員会の発表を終わります。



にしかわざいせいふくし

とうべん

■ 西川財政福祉委員長の答弁

ただいま第2委員会の皆さん、本当に大変すばらしい発表でありました。感動しております。

皆さんは、初めて顔合わせしたのは7月22日でしたね。そのときは本当になれない雰囲気の中で始まったこの委員会、少しずつですけれども、みんなの仲が、和がしっかりと持てるようになって、きずなができてくるようになって、そして現場視察もされて、きょう本当に見事な発表をすることができました。

多くの保護者の皆さんがお見えであろうかと思いますが、御自宅に帰られたらぜひとも褒めてあげてほしいと思います。

我々の委員会では、「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」というテーマで、子ども委員長さん、そして子ども副委員長さんを初めとして13名の委員の皆さんに、本当に活発な議論をしていただきました。

施設見学をさせていただきました西部医療センターにおきましては、エレベーター直結式最新式のヘリポートや、今いろいろお話がありましたリハビリもでき、入院中、心が閉じこもりがちになりそうな人たちにも、気楽に散歩していただけるような屋上庭園、そしてまた家族同伴で本当に不安な出産を迎えるに当たって、家族と一緒に出産という難局に立ち向かうことができる、出産するその部屋、そういった設備を見学してもらいました。

ふだん入ることができない設備もたくさんありました。皆さん本当に貴重な経験をされたと思います。そんな病院は本当に多くの人々の命を守って、救っていく病院として、どういう役割を担っているか、本当に皆さんには、すばらしい経験、勉強、そしてきょうその答えが発表された日であると考えております。

細かいところに気づかれて、さすがであると私たち、大人の私たちが気づかない細かいところを、見学のときも床がやわらかくなっているとか、ここに心やわらぐ絵があるとか、照明が間接になっている、壁の色が白いのはなぜなどと、いろんな疑問があったこと、



本当に私たちも見習わなければならないと思っています。これからの名古屋の市政に十分皆さんの意見を生かしていきながら、頑張ってまいる私たちの覚悟でもあります。

また、みんなの中で困っている人がいたら助ける、落ち込んでいる人がいたら、元気になれるようなまちづくり、そして笑顔で接していくことが、一人一人が身近な人に優しくする、そうした優しさあふれたまちをつくる、友達に伝えていく、これもどれをとってもすばらしい、本当にすばらしい発表であったと思います。

これから皆さんが、この名古屋の子どもは宝というお話がありますが、将来に向かって有用な人材となって、名古屋を支えていていただけることを、本当に頼りにしています。

この3日間でありましたけれども、私、西川を初め、副委員長であります長谷川副委員長、そして岡田副委員長、そして川出先生、それから佐伯さん、唐木さん、江口さん、事務局の皆さん、そしてまた多くの皆さん、そして西部医療センターの鈴木病院長、山本副院長、佐藤管理部長さんなどなど、多くの皆さんがきょうの委員会の皆さんのために時間をつくったこと、このことも忘れないでほしいと思います。

今後、皆さん、それぞれの夢があると思います。その夢に向かっていろいろな経験があると思います。感謝を忘れずに、一生懸命その夢に向かって頑張っていていただける、めげることなく、いつも明るく元気に行っていただけ、そのことを持ち帰ってもらいたいと思います。

本当にすばらしい発表、お疲れさまでした。ありがとうございました。

